



新しい年に、新しい時代にふさわしい新しい学校を思う

新年あけましておめでとうございます。本年もどうかよろしく願い申し上げます。皆様にとって新しい年も、喜びと笑顔にあふれた素敵な一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、一昨年度本校に赴任して以来、「押しつけない、決めつけない、叱りつけない学校にしたい。」と、ことあるごとに本校職員に語ってきました。学校の教育目標「ひとりだち」を具現するためには、何としても排除しなければならない指導の在り方だと思っています。生徒一人一人が自ら考え、自ら判断し、自ら行動できるということが、真の「ひとりだち」です。とは言っても私も含め教員や大人はついつい口を出してしまいがちです。話は20年ほど前にもどります。当時指導していたソフトボール部では、毎朝玄関の土間に膝をつき水拭きを行っていました。凍てつくような寒い日も、雪の降る日も黙々と雑巾で床を磨いていました。土日はほぼ終日練習。弁当は必ず自分で作ることがルールでした。グローブやスパイクといった道具の手入れや管理、部室の整理整頓等についても口やかましく指導していたと思います。私が学級担任や部活動の顧問をしているときの指導は、「押し付け、決め付け、叱りつけ」以外の何ものでもない指導だったように思います。県大会優勝という目標達成のためとは言いながら、こうあるべきという姿を決め付け、生徒に押し付け、できないことを叱りつけるような指導でした。結果は県大会上位に入る強豪校と言われるまでに強くはなりましたが、つらい思いをたくさんさせた当時の教え子たちのことを思うと本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。私は校長になってからも、当時の子どもたちに要求した姿で玄関掃除をしています。郡上で勤務した時もそうでした。冬場は雑巾がけをした跡が白く凍っていくのがわかりました。「床が美しく磨かれると同時に、自分の心も美しく磨かれていく。自分を磨こうと努力しないものにソフトボールをやる資格はない！」

20年前、生徒を前にしてこんなことを語っていました。今は誰にも押しつけるようなことはしていませんが、伝えたかった私の想いは今も変わっていません。

時代は令和に入って5年目を迎えました。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」にあるように、今の時代を生きる者として、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、自ら豊かな人生を切り拓いていかなければなりません。強いリーダーに従っていれば、言われたことを言われたようにやっていたら、必ず豊かな人生が訪れるということは約束されていません。生徒一人一人が自ら考え、自ら判断し、自ら行動できるために、来年度大きな改革を図ろうとしています。学級担任制を廃止して、学年担任制を導入しようと考えています。生徒の自主性と創造性による学級づくりです。学級担任の色ではなく、学級は生徒によってその学級らしい色にと染められるのです。教師が責任を負わないということではありません。学年所属の教師は、学年の生徒全員の担任として、その責任を負うのです。朝の会等、今までは、原則固定化された学級担任がすべて同じ学級に入っていました。来年度からは日によって、時期によって学級に入る担任が変わるということです。生徒と同じように教師にも個性があり、重きを置く価値観にも違いがあります。より多くの教師の価値観や人生観に触れることで、生徒の可能性もより引き出されると確信しています。今後、様々な場面を想定しながら、実現に向け準備を進めていきます。

ただし「押しつけない、決めつけない、叱りつけない学校」であっても、命に関わること、いじめ等人権に関わることについては、押し付けてでも、叱りつけてでも徹底的に指導させていただきます。